

第 1 学年 生活科学習指導案

1 単元名 みんなとなかよし大作戦

2 単元について

(1) 学習指導要領から

本単元は、生活科の内容（8）とかかわりのあるものである。

（8）自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。

学習指導要領の改訂に伴い、新設された指導計画の作成と内容の取扱い（2）「児童の発達の段階や特性を踏まえ、2 学年間を見通して学習活動を設定すること。」を踏まえ、本校の生活科の単元計画から、内容（8）に連なる学習として、身近な人々と伝え合う活動に着目し、2 学年間の学習活動を再構成した。単元計画に基づき 1 学年から段階的に内容（8）の目標を達成できるよう学習活動を設定することで、2 年間かけ、身近な人々と関わり、進んで交流する子どもの姿をめざしたいと考えた。

(2) 小単元の目標

身近な人々と昔遊びの活動を通して触れ合い、感じたことや気付いたことを伝える楽しさを感じ、進んでかかわることができる。

(3) 小単元の評価規準

- 昔遊びを通して、クラスや他学年の子どもたち、地域の人などと進んで関わるができる。（生活への関心・意欲・態度）
- 昔遊びを様々な人と一緒に遊ぶ活動を通して、感じたことや気付いたことを伝え合うことができる。（活動や体験について思考・表現）
- 昔遊びを通して、人と関わる楽しさに気付くことができる。（身近な環境や自分についての気付き）

3 部会研究課題との関わり

研究課題（3） 自分自身や自分の生活について考え、新たな気づきを生み出す「身近な生活に関わる見方・考え方」を育む生活科を実践する。

○昔遊びを通して、伝え合い交流する活動を充実させる学習活動の工夫

うまくなったから、誰かに見てほしい、伝えたい、一緒にやりたいという思いは本学級の子どもたちの普段の様子から対象となる相手を設定することで生まれると考える。そこで本小単元では本校の生活科の単元計画に基づき、1年生段階の伝え合う活動のできる子どもの素地を培いたいと考えた。

こうした子どもたちの伝え合いの活動で必要な友だちの考えを聞く補助となるように、「あそびカード」を使った活動を考えた。「あそびカード」には自分ができるようになった遊びを書く表側と遊びを教えてあげたり、教わったりした時に、サインを書く裏側がある。カードを使った活動によって、これまでよりも友だちの考えを聞くことができるようになると考えた。このように友だちの言葉で聞くと、知っていると思いこんでいたことの中に、新たな気づきが生まれ、学びが深まるきっかけになると考えた。

○思いを価値づけ、伝える場の設定

本学級の子どもたちは自分ができることを伝えたいという思いを強くもっている。活動しながら、自分の思いを伝えることができるように、昔遊びの道具は子どもたちがいつでも手に取ることができる場所に置いておき、常時活動として取り組むことができるようにする。

また本学級の子どもたちの特徴として、体験を忘れてしまい、その後に残りづらい子どもが多くいるため、活動している瞬間に声かけをし、体験したことやそこから得た無自覚な気づきを価値づけていく必要がある。単元全体でその子どもに応じた支援を計画的に行い、気づきの積み重ねから自信を育んでいきたいと考える。

4 児童の実態から（男子16名、女子14名、計30名）

（1）この単元を通して育てたい子どもの姿と子どもの思い・願い

- 昔遊びを通して、学級や他学年の子どもたち、地域の人などと進んで関わろうとする子ども
- 身近な人々と一緒に昔遊びを楽しむ活動を通して、感じたことや気付いたことを進んで伝え合う子ども
- 昔遊びを通して、人と関わる楽しさに気付く子ども

子どもの思い・願い

みんなであそぶと楽しいな。
いろんな人と遊びたい。



教わったらもっと上手
なったよ。わたしもお姉さ
んみたいに教えたいな。



保育園の子たちと一緒に楽
しめる遊びをしたいな。



(2) 教師の願いと配慮事項

	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
教師の願い	①昔遊びを通して、身近な人々と進んで関わるができるようになってほしい。	②昔遊びを様々な人と一緒に遊ぶ活動を通して、感じたことや気付いたことを伝え合うことができるようになってほしい。	③昔遊びを通して、人と関わる楽しさに気付くことができるようになってほしい。
配慮事項	①これまでに行ったことのある昔遊びを振り返ったり、新しく知った昔遊びに目を向けたりしながら興味をもてるようにする。友達や地域の人たちと昔遊びを通して、関わる場を工夫し、楽しめるようにする。	②身近な人たちとの関わりを通して、昔遊びを教わったり、保育所の幼児と遊んだりする中で伝え合い触れ合う楽しさに気付くために感じたことを共有する場を設けることや、言葉かけを行う。	③時間を確保し、いつでも遊べるように子どもたちがとれる場所におもちゃを置いておく。みんなで楽しく遊べるように、見つけた遊び方をカードに書いて見合えるようにする。

(3) 配慮事項に関する実態

○配慮事項①に関して

・様々な人と関わる場の工夫

子どもたちのつぶやきから、休み時間に自教室の中で他学年との交流の機会をもてるようにする。遊び道具を自由に使えるように準備し、上級生と遊び、「6年生のお兄さんってすごいなあ」「コツを教えてもらったよ」などの関わりができるを考える。

また子どもたちが行ってきた昔遊びをもっと上手になるために、地域の方を名人として招き、教わる活動を設定する。昔遊びを教わる活動を通して、地域の方々のすごさやこれまで知らなかった人がたくさんいることは一層意欲を高めることができる考える。また近隣の保育所と交流を計画することで、自分たちが年上としての意識をもち、保育所の幼児と関わるには、どんな準備が必要かを自分なりの思いをもつことができるだろう。

・保育園・幼稚園での昔遊びの経験の想起 学習前の実態調査から、保育所や幼稚園でけん玉やコマなどの遊びを行った子が多いこ

とがわかり、これらの遊びに対して、自信をもってる様子が窺えた。そこで子どもたちのこれまでの経験を想起させることで、昔遊びの活動に意欲をもたせ、楽しみながら活動できると考えた。これまでやったことのある昔遊びを取り上げることで、子どもたちはその技をみたり、教え合ったりしながら活動を広げる様子が想定される。そこで、幼稚園や保育所で経験のある昔遊びをできるように道具を準備することで、その遊びを知らない子どもたちとの交流が生まれ、新たな気付きへと繋がるのではないかと考える。

○配慮事項②に関して

・人との関わりで生まれる自身の成長への気付き

地域の人たちから昔遊びを教わることで、これまで知らなかった遊びを知ったり、できなかった技ができたりするようになり、自分の成長を感じることができるだろう。また保育所の幼児との交流の中で、年上意識をもち、小学生となった自分の成長を感じることのできる機会になると考える。こうした活動を行うことで、教わってできるようになった自分や、教えてあげる自分に気付き、達成感と自身の成長を感じ、関わりへの意欲が高まると考える。

・子どもの活動を価値づける支援の工夫

子どもが体験したことをワークシートに書き表すことで、体験したことや感じたことを言葉や絵で表現できるようにする。文で書くことが苦手な子どもには絵でもかけるように配慮する。そうすることで、ワークシートに書かれた、子どもの気付きや喜びを評価した

り、無意識の気付きを価値づけたりでき、意欲が高まるのではないかと考える。

また絵や文でかくこと自体が苦手な子どもについては活動した内容について声かけを行

い、子どものやったことから価値づけることができるようにする。このような手だてを行うことで子どもたちが自信をもって遊びに取り組むことができるようになり、「いろんな人と遊びたい」という子どもの願いの実現に安心して向かっていけるのではないかと考える。

・子どもの思いを受け止め、価値づける支援

本学級には人との関わりが上手くもてない子どもや個別の支援を要する子が多く、遊びが好きで、みんなと一緒に遊びたい思いは強くもっているが友達とうまく関わるができない面が見られる。こうした実態から本当はみんなで遊びたいと思っている子どもの思いに教員が寄り添い、理解していく必要があった。個別の手立てを行うために、活動に対して適切な声かけをし、行動を価値づけることが重要ではないかと考える。

○配慮事項③に関して

・昔遊びに没頭する場の確保

子どもたちが遊びに没頭することができるように遊び道具は休み時間に自由に遊べるように教室に遊び道具コーナーを設ける。教室の後方が開いているため、その場所を活用し、マットを敷いて、遊ぶ場所を確保する。また一つの遊びだけでなく様々な遊びに関心をもてるように声かけを行ったり、子ども同士で見合ったりする時間を確保していく。時間をかけて遊びに没頭することで、それまで気付かなかった遊びの良さや自身の成長に気付くきっかけとなると考え、子どもたちが十分に自信をもてるようになるための手だてとする。さらに子どもたちが熱中できる遊びとして、まずは自分一人でも遊ぶことができ、十分に自信をつけることができる遊びであることが必要だと考える。

・地域に住む人たちとの関わることで生まれる自身の成長への気付き。

地域の人たちから昔遊びを教わることで、これまで知らなかった遊びやできなかった技をできるようになった自分の成長を感じることができるだろう。また保育所の子たちと交流することはお兄さんお姉さんという意識をもてると共に小学生となった自分の成長を感じることができる機会になると考える。本学級には昨年度、保育園児として昔遊びを教わりに来た子も多数いるため、自分が教える側になったことは自身の成長を感じることのできる機会になるだろう。

5 活動の流れ（15時間扱い）

小単元 みんなでいっしょにむかしあそび

小単元の評価規準

- 昔遊びを通して、クラスや他学年の子どもたち、地域の人などと進んで関わる
ことができる。（生活への関心・意欲・態度）
- 昔遊びを様々な人と一緒に遊ぶ活動を通して、感じたことや気付いたことを伝え合
うことができる。（活動や体験について思考・表現）
- 昔遊びを通して、人と関わる楽しさに気付くことができる。
（身近な環境や自分についての気付き）

【昔遊びを楽しもう】

- 昔遊びの経験を振り返る。（1）
 - ・これまでにやったことのある昔遊びを振
り返る。
- 昔遊びをする。（5）
 - ・けん玉、こま、お手玉、あやとり、おは
じ
きなどで遊ぶ。

【名人に昔遊びの技を教わろう】

- 地域の人に招待状を書く（1）
- 地域の人たちと遊ぶ。（1）
 - ・地域の人たちから遊びのコツや遊び方を
教わる。
- お礼の手紙を書く

【みんなで楽しく遊ぼう】

- 保育園の子と一緒に遊ぶ準備をする。 3）
（本時）
 - ・教わったことや見つけたことを教える準
備をする。
- 保育園の子たちと一緒に遊ぶ。（1）
 - ・遊び方を教えながら、一緒に遊ぶ。
- これまでの活動を振り返る。（1）

留意点

- ・いろいろな遊びができるよう活動する時
間を十分に確保する。
- ・遊ぶ道具の片付け方や遊び方について約
束を確認する。
- ・それぞれのおもちゃで遊ぶ場所を決め、
安全に遊ぶことができるように留意す
る。
- ・できるようになった技や遊びなど見せ合
ったり、紹介したりしながら楽しめるよ
う声をかける。
- ・いろんな人に声をかけて関わろうとして
る子を称賛し、進んでかかわることがで
きるように促していく。
- ・できるようになったことをカードに書い
て書き貯めておくよう声をかける。文字
が書けない子は絵をかくよう促す。
- ・保育園の子が遊ぶ際には必ず一緒に行動
し、手伝ってあげるように班分けを行
う。
- ・これまでの活動を振り返り、できるよう
になったことやたのしかったことを話

し合う時間を設ける。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

○これまで経験してきた遊びを思い出しながら、幼児と一緒に楽しく遊ぶ準備ができる。
(活動や体験について思考・表現)

(2) 展開 (12 / 15)

学習活動と内容・予想される子どもの反応	教師の支援 (○) と評価 (☆)
<p>1 保育所の子たちと一緒に昔遊びを楽しむにはなにが大切か確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やさしく教えてあげたいな。 ・去年お兄さんたちに教えてもらったみたいにやりたいな。 <p>2 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○前事までの活動を振り返り、保育所の子たちと楽しく遊ぶ準備に何が必要かを確認し、学習への見通しをもてるようにする。</p> <p>○本時のめあてを全体で確認できるように指示する。</p>
<p>ねんちょうさんとみんなであそぶじゅんぴをしよう。</p>	
<p>3 一緒に遊ぶ時の約束を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かんたんなあそびならみんなできそう。 ・大きい紙に絵をかくて教えてあげる。 <p>4 幼児と一緒に楽しめる遊びを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けんさしは難しくても、床においた球を突き刺すならできるかな。 ・おてだまを投げてとる遊びをいっしょにやりたいな。 <p>5 考えた遊びを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かんたんでおもしろい遊びを考えたよ。みんなで遊べそう。 <p>6 後片付けをする。</p>	<p>○みんなで一緒に楽しめるように、遊び方を考えたり、伝える準備をしたりするように声をかける。</p> <p>○それぞれの遊びごとに活動する場所を確認し、安全に活動できるようにする。</p> <p>○遊びが思いつかない子にはカードを見て、これまでどんな遊びをしてきたか思い出せるようにする。</p> <p>○考えた遊びを試して、幼児でもできるか試してみる。</p> <p>☆これまで経験してきた遊びを思い出しながら、幼児と一緒に楽しく遊ぶ準備ができる。 (活動や体験について思考・表現)</p> <p>○みんなであそぶために考えたことを、発表し、それぞれの気づきを広げられるようにする。</p> <p>○使ったものを元通りにするように話す。</p>

あそびカード

カード

なまえ

たのしいおもしろいところ

なかよしポイント

おしえてもらったよ

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10

おしえてあげたよ

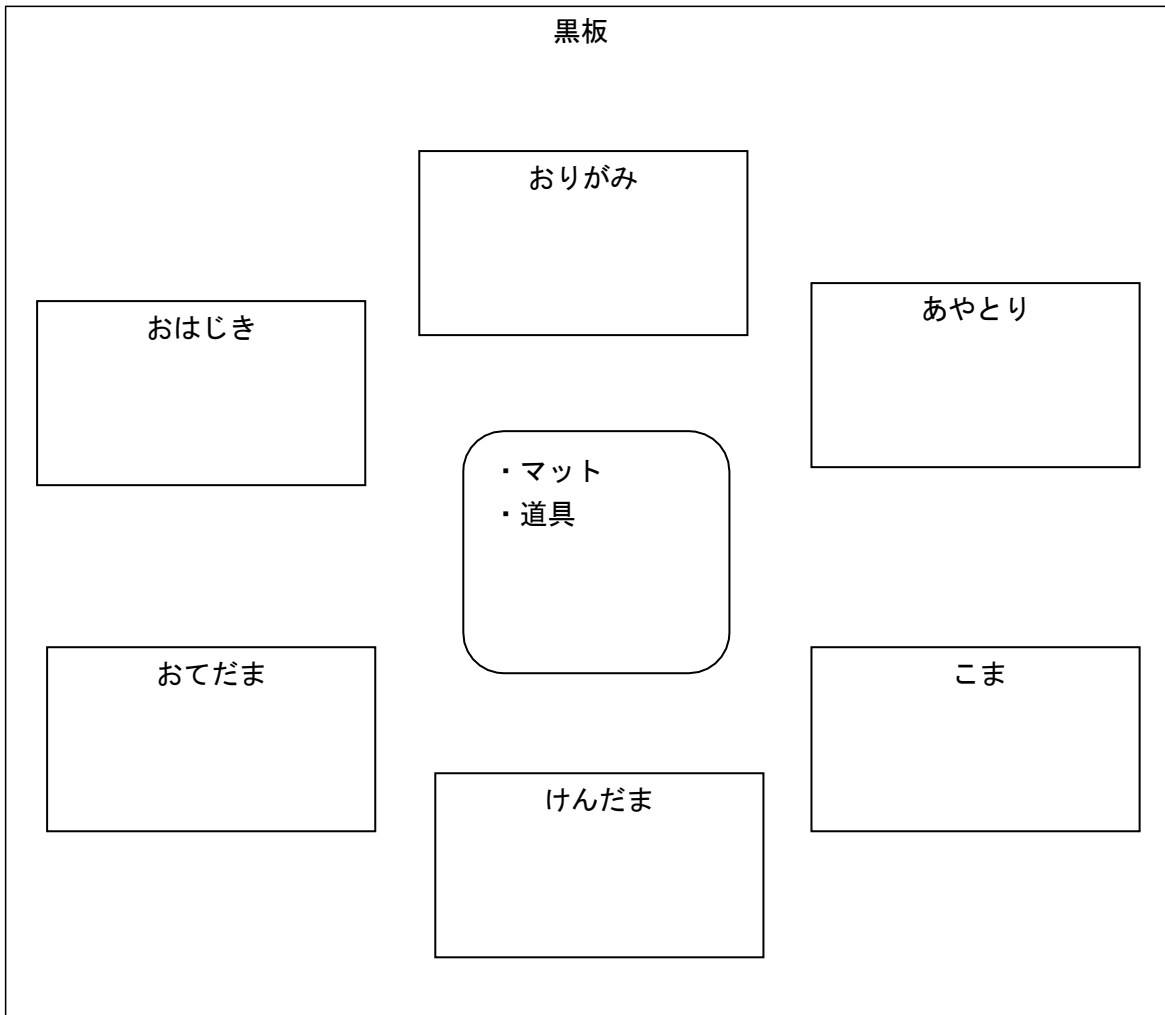
1	2	3	4	5
6	7	8	9	10

おはなしカード

☆
おはなしカード
☆☆

なまえ

いつ？	/ /	/ /	/ /	/ /
たのしかった？	😊😊😊	😊😊😊	😊😊😊	😊😊😊
なにをしたの？				
だれとあそんだの？				



はてな雲

